

会 議 録

1 会議名

令和6年度第6回三和区地域協議会

2 議題（公開・非公開の別）

（1）自主的な審議（公開）

・三和区地域協議会の区内視察（現地視察）、勉強会及び団体等との意見交換を終えて

（2）その他（公開）

3 開催日時

令和6年12月16日（月）午後6時30分から午後7時25分まで

4 開催場所

三和コミュニティプラザ 3階 多目的ホール

5 傍聴人の数

0人

6 非公開の理由

—

7 出席した者（傍聴人を除く。）

- ・委員：高橋（鉄）委員（会長）、龍池委員（副会長）、五十嵐委員、池田委員、江口委員、高橋（恵）委員、星野委員、牧井委員、松井委員、宮澤委員、宮嶋委員、茂木委員、渡邊委員（14人中13人出席）
- ・事務局：三和区総合事務所 小林所長、丸田次長、羽深市民生活・福祉グループ兼教育・文化グループ長、小山地域振興班長、渡辺副主幹

8 発言の内容（要旨）

【丸田次長】

- ・会議の開会を宣言
- ・上越市地域自治区の設置に関する条例第8条第2項の規定により、委員の半数以上の出席を確認、会議の成立を報告
- ・同条例第8条第1項の規定により、議長は会長が務める

【高橋会長】

- ・挨拶

会議録の確認について、「星野委員」にお願いします。

それでは、「3 自主的な審議」に入る。「三和区地域協議会の区内視察（現地視察）、勉強会及び団体等との意見交換を終えて」ということで、皆さんから一言ずつ意見、感想などをいただきたい。今回は、名簿の後ろの渡邊委員から順番にお願いします。

なお、林富永邸では、林富永邸サポーターズクラブ事務局のほか、龍池園経営者という立場で龍池副会長、三和区振興会の理事長という立場で渡邊委員からお話しいただいたが、最後の振興会は時間の都合で質疑応答までできなかった。質疑等があったら発表と併せてお願いします。

【渡邊委員】

林富永邸については、リピーターの方をどのように増やしていこうとしているのか少し聞いてみたかった。リピーターを増やしていかないと、新規だけでは限度があると感じる。あと、地域の方にリピーターになっていただけると、末永く続くのではなかと思っているので、町内会や老人会などへの働きかけをもう少しやったらどうかというふうに思った。

龍池さんの話は、生き方そのものなので圧倒されて終わった。気候が変わってきており、暑さのせいで長野県のりんごが駄目になってきていると聞くので、その辺も自然との戦いで大変だなという感想である。

【茂木委員】

前半については、12月発行の地域協議会だよりで感想を書かせていただいたので、たよりをご覧くださいと思う。

後半の三和中学校のグループワークに参加して思ったのは、先生も生徒もデジタル前提でお話しされていて、今、三和に住んでいる大人たちはデジタルを中学生レベルで使いこなしているのかなと思った時に、大人側が使えないと、どんなに若手が頑張ってもそこに一緒にのっていけないのではないかと少し気になった。大人は全部お膳立てしてもらって使えるようにしてもらわなきゃ無理ではなくて、大人も勉強して使えるようにならないと、頑張っている子供たちの活動を受け取ってあげられないのではないかと少し心配になった。

上沼道の視察は、本当に開通はいつなのかという思いで話を聞いていたし、開通した暁には、通過されないようにどうすればいいのかということをしごく思った。

【宮嶋委員】

当日は、仕事の都合で出席できなかったが、林富永邸は散歩等で年に何回も歩くエリアになっているので気になっていた。昔の見学会では、庭から妙高を眺める景色が良かったが、木が大きくなりすぎて景観が少し悪くなってしまったということで木の伐採などをして良くなったみたいなので、ぜひこういったところを中心に、人を惹きつけるような感じで開発されるといいのかなと思う。

上沼道については、安塚まで開通すれば、安塚からストレートで上越まで出られるようになるので非常に便利になると思う。三和で気を付けなくてはならないことは、先ほども意見があったが通過点にならないように、例えば、そのエリアを中山間地から出てきた人が住めるような、人が集まるようなものができればいいのかなと思う。

【宮澤委員】

私は本郷に住んでいるので上沼道のことをまず考えた。高架橋の工事はほとんど終わっているが、工事が始まる時に県の方が「上沼道はいつ開通するか分からないが、開通すれば新井柿崎線を含めてかなり交通量が増えるので、今から何か考えておいた方がいい」というようなことを言っておられた。林富永邸については、本郷にできるインターのすぐ近くであり、そして北代ぶどう園もそう遠くない。そういうことも踏まえて、上沼道が開通した暁には、そういうものをPRしながら活性化につなげたらいいかなと思っている。どのようにというのは未定であるが、上越市のほぼ中心にインターができるということで、有効利用というか、それを使わない手はないと考えている。新しいもの、また古いものを活用しながら、地域を活性化していったらいいかなと思っている。

【松井委員】

まず総論として、今回の研修をも含め、まず私たちにできることは何か検討・抽出して、「今やらなければいつやるのか」の気持ちを持って立ち向かっていこうじゃないかというのが、総論的な私の捉え方である。

最初の林富永邸の話の中で、林富永邸を核として地域と連携した活動を考えておられる点に注目した。それに対して協議会の立ち位置として、どのような協力とアドバイスが可能か？いずれにしても、長期的には個人サイドでの保存・維持管理は無理であり、団体・組織が運営する方向を考えるべきではないか。今、サポーターズクラブがあるが、実働形態ではない。やはり組織形態をきちんとしたものにしていかないといけない。自分なりに今後どう捉えていけばいいのかというところである。

2つ目、龍池さんの話で感じたことである。農業の6次産業にチャレンジするには工

夫と努力、さらに資金面の調達、コスト等を含め、行政との連携にどう関わりを持っていくかということがこれからの一番の課題ではいか。行政の人たちもいるし、私たちが知り得ていることをお互いに連携を取りながらやっていくということを考えるべきではないか。あとは、経営収支の安定化を図るための規模拡大が今後の苦難と課題で、どう取り組んでいくかが費用コスト削減を含めた難問ではないか。この2つが、龍池さんが説明されている状況の中で、自分に取り組む一番の課題ではないかと捉えている。

3つ目、三和区振興会の渡邊理事長の話である。受け身的な受託事業も大切であるが、今少しチャレンジ精神を持って、新しい三和のまちづくりを捉えた自主事業の検討を望む。

4つ目、中学校成果発表会についてであるが、この件については、中学校そのものは上沼道ということにあまり触れた検討はしていないという状況の中で、さっき総論で申し上げたように、何をしなければ、ではどうすれば、の捉え方から真剣に議論する姿に、大人たる私たち市民が連携して成果追及に協力できるかが今後の我々地域協議会なり、大人としての課題ではないか。聞いただけでは、我々がただそれに参加しただけということであり、あの中から何を引き出していくのかというのが、今後の課題ではないかと思う。

最後、上沼道の件についてだが、上沼道のうち三和・安塚間の早期完成が上越市に及ぼす影響が大きい。この認識を今まで以上に感じた研修だった。もう30年くらい経つと思うが、それが何故なのかということについて、地元がそれに対するアクションを起こしていないのではないかという疑問を持っている。地域協議会も三和区振興会を軸として、関係機関、部局に対して区民こぞっての促進活動と要望の展開を考えるべきではないか。上沼道の期成同盟会があるが、あれは形でしかない。そういうようなことで、やはり地元の区民なり住民として、あるいは我々の地域協議会の立場、特に三和区振興会のまちづくりというものを核としながら、それに対してどういう形で、関係部門、それから市民、区民が取り組んでいくかについて、我々は考えていかなければならないと思っている。

【牧井委員】

私は、林富永邸の玄関まで行ったことはあるが、中に入ったのは初めてであった。三和にもこういう歴史的な文化財があり、今の事務局の方がサポーターズクラブを作って、私たちとは発想が違う地域に貢献できる構想、壮大な計画を持っておられると感心した。

ただ、最後にインバウンドを期待するということであつたが、そこまでいくには、またそれぞれ問題が出てくる場合があるのではないかと思っている。

龍池さんの話であるが、一から葡萄栽培を始めて、多分とんでもない苦勞があつたと思う。そして、家族経営で家族愛に溢れる経営をしている。これから規模拡大ということであるが、私も初めて知つたので、ぜひ応援したいと思う。

三和区振興会については、今後とも福祉事業、誰もが手を挙げない事業を自ら地域の核として率先して継続的に取り組んでいただきたいと思う。

中学生のグループワークへの参加であるが、私が入つた班の中の1人が、親の背中を見て家の農業を継ぎたいということで、今もそういう子供もいるんだなと感心した。

【星野委員】

林富永邸の話だが、上越にある名家のネットワークをつくらなければならないという話、NHKの取材で全国的に有名になり市内ばかりではなく、いろいろなところから来ていただけるようになったという話、あとはインバウンドでどうお客様を引き込むかというような話をされたのだが、ざっくり大きく言ったら、この施設をいかに広く世の中にPRしていくか、PRの仕方によって人が来る。地元の皆さん方がやるのが非常に大切であるが、知ってもらふということがまず必要ではないかということを一生涯命言われていたと感じた。

龍池さんの葡萄の話であるが、全く農業をしたことがないので全く分からないのだが、すごいことだと思った。

三和区振興会はいろいろなことをやっておられて、私も知らなかつたことがたくさんあつたので、今後も聞いていきたい。

上沼道は、三和インターについてももう少し具体的な話が聞けるかと思つたが、まだまだ完成するにはかなり時間がかかるというようなことであつた。

総論で言うと、いかに人に知ってもらふかということが大切であり、それを知ってもらふためにどういうことをしたらいいのかということが大事であると再確認した。

【高橋委員】

林富永邸については、何回も行つたことがあるが、素晴らしい構想で感動した。プレゼンもすごかつた。でも、「じゃあ、そこへ行こう」とすぐ行ける雰囲気ではない。予約が必要だったりするので、気楽に利用できるようになればいいなあと前から思つていた。上越名家一斉公開も夫婦で訪ねたことがあり、林富永邸もすごく立派な文化財であると

いうことを認識したし、いろいろな構想もあるようなので楽しみにしている。

龍池さんの葡萄園であるが、すごく葡萄づくりの熱意を感じたし、私は岩の原ワインの深雪花が大好きで、これからは龍池さんの葡萄だと思いながら飲むことになると思う。県外の友達のお土産に深雪花が多い。いろいろな自然との戦いで大変だと思うが、応援していきたいと思った。

三和区振興会については、前から福祉事業についていろいろ取り組んでおられて、実家の母も利用していて、大変ありがたく思っている。必要としている方に必要なサービスが届くように、私たちは、そういう知識や情報があるわけだから、地域の困っている方にアドバイスをしていけばいいと思った。

三和中学校の成果発表会についてもすごく感心して、将来の夢をしっかりと持っていて、ふるさと三和を愛する気持ちがよく伝わった。私は40歳まで小学校の教員をしていたが、世界に羽ばたく子供を育てるのか、地元地域を愛する子供を育てるのかという問いかけを校長先生がされ、保護者の方はやはり世界に羽ばたく子供に育ててほしいと思う方が大勢だったと思うが、世界に羽ばたく子供がいっぱい出て、でも、ふるさと三和を愛する気持ちをずっと持ち続けてくれたらなと感じた。

上沼道の方は参加していないのだが、上沼道ができれば安塚などにも簡単に行けるようになるので、できるのが楽しみである。

【江口委員】

林富永邸について、事務局の方は全国的な展開、地域の核とした捉え方をされている方であり、SNSを使ったPR等に大変長けている。私の入っているサポーターズクラブは、地元の方に理解をしていただくなど、役割分担をしながらやっていけたらというように考えている。先ほど高橋委員からも話があったように、予約をしないと行けないということで、敷居が高いという声が以前からあった。そのため、昨年からは地元の皆さんを対象とした営業日を設けて試験的に実施をした。例年11月ではほぼ営業は終わるが、終わった後、12月に少し入って昨年は近隣の神田、塔ノ輪、越柳、末野、末野新田、山腰新田の住民の方を対象にチラシを配布し、予約なしで来ていただく方法をとった。今年は、先程の町内会の他に、沖柳と本郷の町内会長に班回覧でチラシの配布をお願いした。ご覧いただけたかどうか分からないが、そういう形で地元の皆さんに理解していただくような形で取組を始めている。今年の結果については、後日、事務局とお会いするので、その結果を見ながら全国的な展開プラス地元についても並行しながら、どうい

う形になるかは分からないが、続けていけたらいいかなというふうに思っている。

龍池さんから葡萄園の話をお聞きして、今までと違った新しい世界、農業分野へ取り組まれたということで非常に感銘を受けた。私も農業に関しては全く分からないところが多々あるので、龍池さんの中で、ネットワークを生かした仲間づくりを起点として、三和はやはり農業が主体的な分野なので、その辺を何らかの形で今後の発展につなげていただければと期待している。

【池田委員】

今回の区内視察・研修はとても勉強になった。まず、林富永邸では、私はサポーターズクラブに入っているが、草刈りに2回程度行ったくらいで、後はほとんど手伝っていないというのが実感である。改めて庭を見て素敵だなと感じた。入って見ないと分からない、行って見ないと分からないというのは結構あると思う。もっともっとお客さんが増えればいいと思う反面、安らぎを奪ってしまうような場所になっては駄目だろうなと考えている。

龍池さんの葡萄であるが、私も庭で葡萄を作っているのだが、なかなか葡萄は大変手間がかかる。その葡萄をゼロから始めたというのはすごいと思うし、栽培面積にも圧倒された。話の中で、多額な自己資金と研修も必要とのことであり、今の若い人たちが農業に入っていくために、この壁をどう取っ払ってあげれば若い人たちの場所になるのか。三和は平らですごくいい土地だと思う。農業に適しているのなら、若い人がどんどん農業に入っていけるような支援をどうやっていくか、というところを考えないといけないと感じた。

三和区振興会の「みんなの足」は、私自身まだ利用する立場になっていないので何とも言えないのだが、利用する立場になることを考えると、三和の中で困っている人が出ないようにする事業をされている。それだけでもすごいことだと思う。

三和中学校成果発表会では、生徒が発表する姿と周りの展示パネルを見て、すごいなと思ったし、自分が中学3年生の時こんなことやれたかなと思った。発表の仕方とか、発表する内容もよくまとめてあった。あと感じたのは、三和の中で留まっていたら大きくなれないだろうし、反対に都会の方に一度は出てほしいなと思う。都会に出て、改めて自分の地域をどうするかというところを考えてもらえるような子供になればいいかなと思っている。

それから上沼道については、完成時期を考えたら、ほぼ利用することはないのかなと

感じてしまう。もう少し早くできればとは思う。

【五十嵐委員】

林富永郎は、この地元にながら初めて入った。事務局の説明を聞いて、地域の核になるということを念頭にいろいろ取り組んでおられるが、その中でやはり組織作りの難しさ、それとリピーターの取組を何とかしたいというようなことを話されていたが、これは一人ではどうにもできないということなので、私らも何か手伝いができればと感じた。

龍池さんについては本当に素晴らしいと思う。マイナスから始めて今があるというのは、私も農業をやっている分かるが、ものすごく大変である。あと後継者だが、私も米作りをしていていろいろな会議に出るが、子供がいて給料をたくさんあげれば入ってくるという人がいるが、実際にはそれを誰もやろうとしない。そこには何かあると思う。皆さん農業をまだ本当に理解していない。口ではそう言うが、自分の子供にはさせたくないというのが本音ではないかと私は思っている。お互いに若い後継者を見つけて、葡萄も米作りもそうであるが、農業を盛り上げていければと思っている。

三和区振興会であるが、本当に地域の実情を踏まえて、計画的に運営されていることを改めて知り感激であった。

三和中学校のグループワークへの参加であるが、先ほど池田委員も述べられていたが、私が中学3年の時にここまで考えていたかなと思った。ただ残念だったのは、いろいろな子供が発表するのだが、地元をいたいとか、地元を何とかしたいとか、そういう意見がほとんど無かったのがちょっと残念だったなと思った。

上沼道は、予算的にも工法的にも、そして地形的にも難しいところがあり、あまり進んでいないようだが、1日も早く開通すればいいというところである。

【龍池副会長】

私の方は、次回の地域協議会日より、中学生とのグループワークに参加したことについて書いているので、そちらを見ていただければと思う。

今回、研修の中で一番心に残ったことについて話したいと思う。それは、三和区振興会のところである。私は、恥ずかしながら今まで何をされているかよく知らなかった。今回、地域協議会に入って、話を聞いたことによって、どういう組織で、どういうこと、どういう人たちに何をしているかというところまで知ることができた。というのは、自分が全然関係ないところでずっと生きていたからだと思う。今は体が動くし、周りに困っている人もいないと思って普通に生きてきたからだと思うのだが、今年、父が倒れ救急

車で運ばれることになった。そういうことがあって、突然身近にそういう状況が降りてきた。どういうふうに父をケアしたり支えたりしていくのかということで、家族の問題として捉えた時に、どうしようかなっていう状況になった。そういう気持ちの中で三和区振興会がされていることを聞いて、実は意外と身近に落ちていることをされているのではないかなというふうに思った。情報として知らないから分からなくて、ひょっとしたら透析する人もタクシーで行っている人達がたくさんいるかもしれない。でも、私達みたいな40代、50代の人達が、三和区振興会が何をしているかを知っていれば、もっと助けることができる人たちがいるのではないかと思った。岡田町内も65歳以上の独居の方々が60パーセント以上と言われており、目の前の3軒とも一人で住んでいる方々なので、声掛けしたり、一緒に少し喋ったりしているのだが、そういう目線を常に持って、私自身もして生きていきたいと思った。

【高橋会長】

私は一言で、自分の役割、やらなければいけないのは何かと考えた時に、つなぐことが私の役目ではないかと思っている。いろいろないいものがあったとしても、つないで継続していかなければ発展がないと思っているので、それは私自身が努めていきたいと今回の研修で感じた。

一通り皆さんの意見等をいただいたが、聞いてみたいことなどあれば若干受け付けたいと思う。あと、三和区振興会の理事長である渡邊委員に何か聞きたいことがあれば、この場で改めて受けたいと思うがいかがか。

(なし)

【高橋会長】

なければ、今の意見発表を踏まえて、この後の勉強会で自主的審議に向けて話し合いを行いたいと思うので、よろしく願います。

それでは以上で、「三和区地域協議会の区内視察（現地視察）、勉強会及び団体等との意見交換を終えて」を終了する。

【高橋会長】

「4 その他」に入る。

まず、渡邊委員から話がある。

【渡邊委員】

配付した三和商工会の年末感謝祭のパンフレットをご覧いただきたい。三和商工会が

毎年行っている大きなイベントである。最終ページを見ていただくと、三和区振興会賞ということで、毎年、振興会もお金を出している。当初からだんだん金額が少なくなっていたが、今年三和商工会として最後になるので3万円まで戻したという経緯がある。ぜひ三和区内の商店でお買い上げいただきたいと思う。

【高橋会長】

次に私の方から話しをさせていただく。三和商工会から「さんわ桜の陣2025第1回実行委員会の開催について」という案内が私の方にあった。そして、第1回実行委員会が12月13日で、既に終わっている。本来ならこの場で委員を選出するのだが、時間的に難しかったので、私の方から茂木委員にお願いして実行委員になっていただいた。茂木委員から第1回実行委員会の報告等があったらお願いしたいと思う。

【茂木委員】

実行委員ということで、第1回実行委員会に参加した。第1回ではあるが、次は開催前の3月にもう1回のみということで、あとは、当日の手伝いの動員があるかなということである。今まで商工会が中心になっていたので、実行委員は全て商工会と工業団地の方数人だったそうだが、今回、商工会が合併するというので、半分位が商工会のメンバー、残り半分が地域協議会など別の団体からで、メンバーは半分位入れ替わった。だが、現在まだ商工会は活動されているので、今年に限っては今までのノウハウや人材、資金面等について商工会が主体で仕切ってくれるということである。来年からどうなるのかについては未定であったが、会長、委員長としては、できれば続けていきたいという思いのようであった。あと、会場になっている三和西部スポーツハウスが今年度末で廃止になるので、その後どうなるのかなという感じではあるが、来年の春は開催されるので、ぜひ皆さんから来ていただければと思う。

【高橋会長】

総合事務所では次長が実行委員ということであるが、皆さんで盛り上げていきたいと思う。

続いて、地域協議会活動報告会について、事務局から説明をお願いする。

【小山班長】

毎年、年度末に開催していた地域協議会等の活動報告会について連絡である。前期からの委員はご存知だが、今期からの委員もおられるのでこれまでの経緯を簡単に説明する。令和4年度までは、地域活動支援事業の活動報告会ということで、提案があった事

業を地域協議会で審査をしていたので、協議会主催で事業を実施した団体から来ていただいて報告会を開催していた。しかし、昨年度、令和5年度から地域独自の予算事業になり、地域協議会での審査もなくなり、協議会主催で団体に来ていただいて事業報告してもらうというのは違うのではないかと、そこはなくなった。昨年度は、委員改選に伴う4年間の協議会の活動報告と委員の公募説明会を2月29日に開催した。今年度、地域協議会の活動報告会を開催するかどうかを会長、副会長、事務局で相談した結果、開催しないこととなった。理由としては、5月から活動をスタートして、本日を含め協議会6回、勉強会5回、11月に研修会を実施したが、区民の皆さんに来ていただいて報告会を開催するには、まだ内容が薄いものになってしまうのではとのことで、今年度は開催しないこととなった。

(質疑等なし)

【高橋会長】

では、次回の開催について、事務局から願います。

【丸田次長】

年が明けて1月の地域協議会となるが、1月27日の月曜日でいかがか。

【高橋会長】

- ・日程調整
- ・1月27日(月)、午後6時30分から決定

以上で、本日の地域協議会を終了する。

【龍池副会長】

- ・挨拶
- ・会議の閉会を宣言

9 問合せ先

三和区総合事務所 総務・地域振興グループ TEL: 025-532-2323 (内線 215)

E-mail: sanwa-ku@city.joetsu.lg.jp

10 その他

別添の会議資料も併せてご覧ください。